

事務事業名 水難救助資器材等購入事業

区分	No	名称
章	2	自然とともに暮らすまち
節	3	安全に安心して暮らせるまちづくり
施策	2	消防・救急救助体制の充実
小分類	2	消防力の強化・高度化
主要な施策	1	消防施設、機器整備の高度化と効率化
事務事業番号	008	事業開始年度 平成 12 年度 事業終了年度 平成 - 年度 会計種別 一般会計

部 名	消防署	グループ名	警備G
-----	-----	-------	-----

事務事業の概要

《Plan・Do》

目的	(事務事業の実施目的を具体的に記入してください)
	あらゆる条件(極寒、荒波、強風、急流等)のもと、人命救助をおこなわなければならない、装備する資器材で事故があってはならない。そのため資器材の管理は重要であり、特に劣化の著しいもの、あるいは耐用年数に応じて更新することとする。またボートの整備により多種多様な水難事案に対応することができるため事業を進めることを目的とする。
事業内容及び実績	(事業内容及び平成23年度の実績を具体的に記入してください)
	本年は経年劣化した次の水難救助資器材の更新整備をおこなった。 【事業実績】 ・ドライスーツ2着 ・コンソールゲージ2個 ・レギュレーター2個 ・BCジャケット2着
今後の方向性	(次年度以降の事業展開における改善など今後の方向性を具体的に記入してください)
	継続して水難救助資器材を更新整備する。
根拠法令等	(事業を実施する際、根拠となる法令・条例・規則・要綱等の名称を全て記入してください)
	消防法施行令、労働安全衛生法、高気圧作業安全衛生法

事業費(財源内訳)の推移

《Plan・Do》

区分		単位	H22年度 決算	H23年度 決算	H24年度 当初予算	H25年度 見込	H26年度 見込
国庫支出金	名称	千円					
道支出金	名称	千円					
地方債	名称	千円					
その他	名称	千円					
一般財源	名称	千円		893	900	1,310	90
事業費合計			0	893	900	1,310	90

指標の推移

《Check》

区分		単位	区分	22年度 実績	23年度 実績	24年度 目標	25年度 目標	26年度 目標
成果 指標	水難救助資器材購入事業		目標値		1	1	1	1
			実績値					
			目標値		1			
			実績値					

現況		《Check》
現状の状態、問題点、課題等《事業前》	具体的な対策、解決の方向性《事業後》	
あらゆる条件下（極寒・荒波・強風・急流等）において、人命救助をおこなわなければならない、装備する資器材で事故があってはならず、活動時また訓練時においても劣化が著しく、資器材の管理は重要であります。	水難救助隊員の器材管理は重要であり、特に劣化の著しいもの、あるいは耐用年数に応じて更新整備し、水難事案に対応できます。	

担当グループによる事務事業評価の内容（複数回答可） 《Check》

1. 事務事業の妥当性について		
市が事業主体として実施していくべき妥当性の高い事業ですか？	市が主体に行うべき事業である	判断理由及びその他所見 水難救助事案対応が目的であり、市が実施することが妥当である。
	民間(事業者、市民団体等)でも実施可能である	
	国、道、他団体等との連携や広域化が可能である	
	国、道、民間等の事業と重複・類似している	
2. 事務事業の必要性について		
市民ニーズの状況等から勘案して、必要性の高い事業ですか？	市民、団体等から具体的な要望がある	判断理由及びその他所見 水難救助資器材が更新整備されているため、各種水難事案に対応できる。
	市民アンケートの結果から必要性が高い	
	社会情勢、地域事情等から必要性が高い	
	市民の大部分が関連することから必要性が高い	
3. 事務事業の効率性について		
事業内容とコスト(事業費)のバランスがよい効率性の高い事業ですか？	低予算、少労力で高い効果をあげている	判断理由及びその他所見 年々出動件数、訓練回数が増加傾向にあり、水難資器材の消耗、劣化が激しく、コスト削減は難しい。
	市で実施するほうが民間委託より効率性が高い	
	多額の経費や労力を要するがやむを得ない	
	将来的に効率性を向上できる	
4. 事務事業の成果について		
目的を達成するための成果はあがっていますか？	成果指標の向上が見られる	判断理由及びその他所見 各種水難水難救助事案に対応しており、水難資器材が整備されている事から事故、公務災害等が起きていない。
	市民、団体等の声から成果を感じられる	
	目に見える形で成果があがっている	
	成果の把握は困難である	

担当グループによる評価 《Check》

<b>維持</b>	左記の評価を選択した具体的な理由（根拠）	あらゆる条件（極寒、荒波、強風、急流等）のもと人命救助をおこなわなければならない、装備資器材で事故があってはならない。そのため資器材の更新、整備は重要である。またボートを整備することで多種多様な水難事案に対応することができるため事業を進めることとする。
-----------	----------------------	--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

行政評価会議による評価 《Check》

<b>維持</b>	備考
-----------	----